

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの月寒 1階		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやり」の理念に基づき、笑顔の溢れた日々を過ごせるよう寄り添った支援を心掛けている。  
入居者様の希望に沿った外出支援と、地域との繋がりも大事にしており今後も継続していきたい。  
スタッフ同士の連携もとれており、入居者様の支援に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのぼの月寒」は国道36号線から少し入り、バス停から近い住宅街にある2ユニットの事業所である。開設13年が経過し、地域の中で楽しい暮らしが継続できるように管理者と職員は「笑顔と思いやり」の理念を意識して温かなケアに取り組んでいる。町内会の親睦会やお楽しみ会に利用者も参加し、中学生が事業所の夏祭りやクリスマス会に参加するなど住民との交流を楽しんでいる。次年度には行事レクの際に地域の子供にも働きかけて食べる楽しみなどの企画を話し合い、子供との交流場を積極的に検討している。管理者は職員の自主的な取り組みを支え、両ユニットの利用者の状態を把握できるように毎月合同会議を行い、情報を交換して日々のケアを行っている。全体のリーダーやユニットのサブリーダーを中心に毎月研修会を企画して学び、法人研修にも参加して質の高いサービスを提供している。身体拘束廃止委員会を毎月開催する中で、全職員がチェックした表を集計して結果を会議で評価し、拘束をしないケアに取り組んでいる。主治医の指導の下で看取りケアも行っている。行事では職員の発案で居酒屋レクや手作りの弁当持参で外出レクを行い、楽しめる場を提供している。利用者の行きたい場所や食べたい物を選んで貰うなど可能な限り支援し、個別の思いに沿って笑顔で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と思いやり」の理念を常に職員やご家族様の目の届く場所に掲げ、理念に則したケアを心掛けている	運営理念の3項目に、地域との繋がりを大事にするという文言があり、住民との交流を実践している。各ユニットでは毎年目標を作成し、それらを基にホーム目標も作成して掲げている。職員は理念を共有し内容を意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や近隣の方々に運営推進会議に参加して頂いたり、行事など参加を呼び掛けるチラシを配布したり、地域の一員として繋がりが持てるよう心掛けている	町内会のお楽しみ会や親睦会に参加し食事の提供を受けることもある。中学生が職業体験のほか、事業所のクリスマス会などに参加している。幼稚園に働きかけて和太鼓発表会を見学し、今後も地域の子供と交流する機会を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	わかりやすく相談窓口や認知症カフェの案内を掲示し、認知症や介護など気軽に相談などを受けられる体制を作っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、行事などの報告をし、ご家族様や近隣の方々の意見を頂き、日々のケアに活かしている	2か月ごとに会議を開催し、防災、外部評価、看取り、感染症についてミニ勉強会も行っているが、町内会や家族の参加が得られない会議もある。議事録の質疑応答などを分かりやすく記載し、参加できない家族への関心を深めたいと考えている。	町内会と話し合い、役員が交代での出席も含めて定期的に参加が得られるよう期待したい。会議案内に毎回テーマを記載し、参加が難しい家族の意見を引き出しながら会議に反映できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や豊平区管理者連絡会などで連携を取り、運営推進会議などに参加して頂いている	制度的な相談など事務的な事は本部で対応している。事業所内に認知症カフェを開き、地域に開放している。区役所での介護認定の更新申請を代行したり、生活保護担当者とは必要に応じて連絡を密にし、関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様とも連絡をとり、拘束にあたらぬよう利用できる用具や介護のあり方を相談し対応している	以前から「身体拘束廃止委員会」を設置し、毎月委員会で事例の確認や研修会を企画し、職員は議事録で内容を把握している。研修会や会議の中で身体拘束禁止行為を確認し、利用者の意向を妨げない言葉遣いを話し合っている。各ユニットの入口を施錠しているが、意向に沿って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や委員会など常に職員が虐待について考える機会をつくるよう心掛けている		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方はいませんが、外部の研修で学んだことがある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様から意見を伺うことをしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪された時はご本人様の状況報告をしている	昨年は家族アンケートを実施し、今後も項目の見直しや回収方法を工夫して継続したいと考えている。来訪時にケアの提案や介護計画の意向を聞いているが、表出できない思いの把握も必要と考えている。	家族が気になる個々の思いも把握できるよう、職員の気付きも含めて利用者ごとに記載し、職員間で共有できるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に意見を伝える機会が常に設けられている	毎月合同で会議を開き、利用者の情報交換などを話し合い、研修も行っている。4つの委員会に各ユニットからの担当や係りなど全職員で業務を分担している。管理者は業務中や必要に応じて個別の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の案内や社内研修が行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会議で研修が行われている 日常の業務の中で資質向上の為の環境整備ができています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内では他施設の職員との交流はないが、ボランティア活動を通し他施設職員との交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が安心して生活できるように日々の会話から、困っていることがないか耳を傾けながら関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とご家族様も安心して生活できるように要望を踏まえながら今までの生活や様子など聞くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様と話し合いを通して必要な支援を見極められるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人様が出来る事はご自分でできるよう支え、関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された時は日頃の様子を伝え、ご本人様とご家族様の過ごす時間を大切にできるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で馴染みの人や場所などを話しながら安心して過ごせるよう努めている	近所に住んでいた友人が来訪している。家族と外食、買い物、温泉に出かける方もいる。会話から家族と相談し、職員と2人で定山溪温泉に出かけたり、小樽に行きたい話から数人で外出している。趣味の編み物で糸の買い物に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに生活できるよう入居者様の関係を把握し、関わられるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後必要に応じて相談、支援を行えるようにしたい			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活や会話の中から、ご本人様の思いを汲み取り、ご家族様からの希望などの情報を元に把握していきたい	会話の中や、難しい場合は普段の様子を見て意向を把握し可能な限り実現に向けて対応している。ユニット共通のシートで基本情報の作成を進めているがアセスメント表はユニットごとに作成している。	暮らし方や趣味、嗜好など利用者視点からの情報収集として、センター方式を使用しているユニットの(B-3)シートを共通にし、利用者の思いや変化を記録で把握できるような工夫に期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を活かし、サービスを提供できるよう努力していきたい			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様が希望される過ごし方に添うようにしていく			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での情報交換を元にし介護計画を作っている	計画作成担当者は、担当職員が毎週行っているモニタリング表と「ひもときシート」を基に会議で話し合い3か月ごとに介護計画を作成している。「支援記録」は、短期目標に沿ったサービス内容の変化なども印を付けて見直しにつなげている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など介護記録や申し送りなどで情報を共有し、見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人様の希望に添えるようサービスに取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の来訪、ホームのお祭りなどで暮らしを楽しめるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望される医療機関を受診している	ユニットごとに別医療機関の訪問診療をほぼ全員が受けている。内科以外の他科受診はかかりつけ医を継続し、家族の事情もあり事業所でも対応している。受診内容は、利用者ごとに往診や通院の状況を記録し経過を把握している。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談し指示を受けている また、記録に残し情報共有し受診が必要な時に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時等は状況や今後の事をご家族様と相談したり、情報を共有し協力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合っ方針を決めている	利用開始時に重度化と終末期の対応指針の中で継続的な医療行為がなく、家族の協力を基に看取りが可能なことを説明している。昨年は医師の指導で3名を看取り、職員は研修や看護職員の下で日々学びながら看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方に協力して頂き、避難訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や近隣の方と協力し、毎年避難訓練を行っている	2回のうち1回は消防署立会いで夜間想定避難訓練を行い、近隣住民は誘導後の見守りで参加している。昨年は地震の影響で備蓄品も見直している。今後は地震時のケア別の対応を職員間で再確認し、マニュアルへの追記を考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様に合った声掛けを行っている	社内研修や内部研修で、利用者に対する不適切ケアについて学んでいる。記録物に応じて部屋番号で表記したり、パッド類はイニシャルにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようご本人様に聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活ができるよう、ご自分のペースで生活して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな洋服を着て頂き、理美容サービスも利用して、おしゃれを楽しんで頂いている		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご本人様が無理のないよう提供している 片付けをお手伝いして頂ける時は一緒に行っている	利用者の好みに応じ、献立の調理方法を変更することもある。食事やおやつのパイキングを楽しんだり、和食レストランや回転寿司に出かけている。利用者と一緒に、月見団子やおはぎを作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日常生活記録表にて管理している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診と連携をとりながら、お一人お一人口腔ケアをしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活記録表に記入し、個々に合わせてトイレ誘導している	失敗が少なくなるように声かけを工夫し、座位が可能であれば昼夜共にトイレでの排泄を支援している。職員間で情報を共有して時間帯や排便間隔に応じてパッドの大きさを調節し、細やかに個別対応を行いながら自立に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを毎日行い、主治医と相談しながら便秘しないよう対応している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調が悪く入浴できない場合は清拭している	身体状況の変化により浴槽に入れる方も少なくなっているが、可能な限り本人の希望に沿った時間帯で入浴を支援している。入浴を嫌がる時は、家族や主治医の協力を得ることもある。入浴剤を使用したり、冬至にはゆず湯を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合わせて無理のないように声掛けしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師などと連携をとっている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に合わせた楽しみ(折り紙や編み物等)やレクリエーションをしている			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等、外出レクは時間を作り支援している	日常的に近隣の住宅地を散歩したり、玄関先で外気浴をしている。近隣の商店でアイスを購入して食べることもある。個別外出で宿泊旅行や外食、買い物などに出かけている。弁当持参で花見や円山動物園に出かけたり、初詣や雪まつり見学に行くなど年間を通して積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理しているが、ご本人様の希望に添ってお金を使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時にご家族様に電話して頂いている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいように表示しており、フロアに季節感のある飾りをしている	居間兼食堂には、大きな窓から明るい光が注いでいる。ユニットの入り口に、来訪した家族が自由に見られるように職員手作りの利用者ごとのアルバムが置いてある。廊下に掲示している行事の写真やユニット入り口の本人の写真から、居心地よい環境でその人らしく過ごしている姿が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる時間を作っている 思い思いの空間が作れるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物を飾って居心地よく過ごせるよう努めている	洋服ダンスや整理ダンス、籐椅子など、殆どの方が使い慣れた物を持ち込んでいる。人形や小物を飾り、裁縫や編み物などの趣味を継続して落ち着いた日々を過ごしている。壁やベッド周りに、母の日や誕生日のプレゼントやカードが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	共用部分をご本人様が出来る事を確認した上で配慮し、手すりを使用し自立した生活を送れるよう工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの月寒 2階		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20-59		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやり」の理念に基づき、笑顔の溢れた日々を過ごせるよう寄り添った支援を心掛けている。  
入居者様の希望に沿った外出支援と、地域との繋がりも大事にしており今後も継続していきたい。  
スタッフ同士の連携もとれており、入居者様の支援に力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が同じ方向に向かえるよう確認し合いながら業務にあたっている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達と交流できるよう、より多くの行事に招待したり、参加できるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや行事等の案内をし、ホームの事を知って頂き訪問しやすい環境作りに励み、認知症の方の理解に挑んでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、意見を交わしてサービス向上の参考にしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所と連携していけるよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、拘束にならないよう安全に暮らしていけるよう気を付けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心にスタッフ間で確認し、虐待防止に努めている		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に対応できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書に基づき説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時等や手紙で近況報告し、コミュニケーションを積極的にとり相談しやすい環境づくりをしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員との日常的にコミュニケーションをとっている管理者と連絡を取り提案を聞く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により向上心を持って働けるよう環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議等で研修時間を設けている 外部研修の情報を伝え共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループ施設との研修を実施し、外部評価等を通してサービスの質の向上に繋げている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様と会話する時間を持ち困っている事、不安な事、要望等お聞きしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時、お手紙で様子を伝えられるようコミュニケーションをとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が必要としている支援を見極めれるように、話し合いを持っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良い時も悪い時もご本人様と共に過ごし支え合うよう考えている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援のヒントを得たり、意向を汲み取れるようにしてご家族様の協力を得られるよう心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に馴染みの人や場所の関係が続くことができるように情報収集し対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に合わせ一緒に過ごしたりし、孤立せぬよう関わり合う事ができるよう努めている		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご家族様へ、レクリエーションや認知症カフェの案内などを送り、関係を絶やさないようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や周りの方々から話を聞き検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を調べ、共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をよく観察し、情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で意見を出し合っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事があれば必ず記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度サービスを見直ししながら、できる限り取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活が送れるよう工夫し支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望するように支援している		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日常の変化を伝え、往診医との連携に活かしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病気の治療内容、体調の変化を理解し、ご本人様が安心して入院できるような関係に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とその都度話し合い、施設内、ユニット内、往診医と情報共有できるように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度、初期対応の訓練を行い、マニュアルを確認できる環境作りをしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護を大事にし、心掛けて対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様に無理のないような声掛けをし、なるべく希望に添えるように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、清潔な服装でいられるよう対応している		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の能力に応じて準備や片付けのお手伝いをしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から栄養バランスやカロリーの計算をした食材を届けてもらっている 食べられない物がある方には個別に対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアの声掛けをしている 歯科往診を受け、治療や口腔ケア指導を受けている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態に応じた下着やオムツ、パッド等を使用し日中、夜間それぞれに応じた対応をしている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排便状況を把握し、主治医や看護師の指示に応じて下剤等を使用している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけご本人様の希望に合わせた入浴を心掛けている 入浴が出来ない時には清拭を行っている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調に合わせて、日中も休んでもらえるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をみながらチェックを行い服薬して頂いている状態の変化があれば主治医や看護師に指示を仰いでいる			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた大きなレクや個別レクを行って日々のお手伝い等を個々の能力に応じてしている			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク等では楽しんで頂けるよう多くの方に声掛け、外出できたと思う			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時、一緒に使用するが管理は会社で行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仕事に合わせて飾り付けやフロアで過ごしやすいように配慮している			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方に合った場所の提供をしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく安全に過ごせるよう配慮している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で過ごせるよう配慮している			

## 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの月寒

作成日：平成 31年 3月 15日

市町村受理日：平成 31年 3月 18日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族様とのコミュニケーションは取れていると思っているが、表出できない思いや意向が汲み取れていないのではないか？昨年は、ご家族様アンケートを実施したが、皆さん特に要望はない・今のままで十分といった内容だった。	ご家族様の思いや意向を汲み取ることができる。	アンケートの実施(オープンクエスション形式・負担ないように記入欄が少なくなるよう工夫・集計先は本部等ホームのスタッフが直接集計しないことを明示)	6ヶ月
2	4	運営推進会議の出席者が偏っており、町内会の役員が出席されない。また、ご家族様の参加がない事もある。	町内会役員の参加声掛けとご家族様に参加して頂ける工夫をする。	町内会役員への周知と参加の声掛けを必ず行う。ご家族様に興味を持って頂けるよう、事前に内容を伝えたり、どんなテーマを取り上げてほしいか等を聞いてみる。	6ヶ月
3	23	入居者様の情報収集方法がユニット毎に違いがある。	ホーム共通の情報収集方法だけでなく、ケアプラン様式や書類様式・管理方法等を見直し、ホーム全体で取り組めるようにしていく。	計画作成者との話し合いを持ち、様式の検討を行う。管理方法については、他ホームではどのように行っているかを見学させて頂き良い方法を見出し取り入れる。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。